

東京都公害研究所, 1972 a : 東京スモッグに関する  
調査研究第二報, 134-137.  
東京都公害研究所, 1972 b : 東京スモッグに関する

調査研究第二報, 105-107.  
吉沢 博, 1968 : 神戸市における局地気象につ  
いて, 大気汚染研究第 9 回講演要旨集, 26-44.

## 国際環境保全科学会議の概要

### 会議の規模

海外からの参加者を 100 名前後, 国内参加者はおよそ 200 名から 300 名と予想している。分科会は, それぞれ, 数十名の規模で, 実質的に討論を行う予定であり, いたずらに参加者の多い事は望まないが, 熱意ある科学者の参加は心から歓迎する。会議の用語は英語とする。

### 会議の期間

1975年11月16日(日) 登録  
17日(月) 開会行事  
18日(火)~21日(金) 分科会  
22日(土)~23日(日) 現地視察(数班に分れる)  
24日(月)~26日(水) 全体討論, 閉会行事

### 会議の場所

国立京都国際会館(京都市左京区宝池)

### 会議参加費

1人1万円(ただし, プロシーディングスの費用は含まない。)

参加希望締切り 8月末日

### その他協力の要請

- 1 学協会誌その他を通じて会議の趣旨を広報していただきたい。
- 2 学会・又は協会, あるいは試験研究機関として, 今後の連絡を希望される向は, 担当者をおきめ願いたい。(日本気象学会では神山理事を担当者とした)
- 3 会議の参加の仕方は個人参加の形をとると思われるが, その際, なるべく, それぞれの機関の研究の成果を持ちよられることを希望する。
- 4 会議運営のため募金活動が行われる。学協会に対し直接そのための活動を要請することは無理であるが, いろいろの形で協力をお願いしたい。

### 会議の性格

この会議の性格は次の如く要約される。

- 1 どこまでも科学的な調査・研究の成果をできるだけ深く討議して, 明らかになった点と, 今後明らかにしなければならない点をはっきりと認識することにつとめる。
- 2 自然科学, 人文・社会科学の各分野の科学者・技

術者が討論に参加し, いわゆる学際的な討議の場となるようにつとめる。

もちろん, 課題によっては, 専門家の討論の場をもつことも必要となるであろう。

- 3 この会議は, 世界のどの国の人でも参加できるようにでありたい。
- 4 この会議を日本で開催する意義は, 日本はいわゆる公害の先進国と言われ, この経験を世界各国の科学者が見聞すること自体一つの意義があるであろう。
- 5 この会議は, 科学者による科学の会議である。したがって, 何らかの形で, 全体の考え方を声明にして発表するというようなことはないであろう。いろいろの立場の科学者が, 十分に討議し, その結果を社会に提示して, それぞれの場で生かして貰うことが基本となるであろう。

### 分科会の構成

#### 第 I 分科会

- 1 生態系における人間の影響
- 2 環境毒物学
- 3 生産・消費過程における再循環と閉鎖系

#### 第 II 分科会

- 4 環境権
- 5 環境アセスメントと政策問題
- 6 環境保全のための法技術

#### 第 III 分科会

- 7 環境と開発
- 8 開発国・発展途上国に関する諸問題

#### 第 IV 分科会

- 9 地域に総合化された諸問題
- 10 地球的規模における環境問題
- 11 文化環境の問題

#### 第 V 分科会

- 12 環境破壊監視の方法論
- 13 事前評価・回復
- 14 環境情報・教育のコミュニケーション
- 15 学術研究課題の優先順位